

帝国主義と条約改正

今日の問い

列強が世界に進出するなか、日本はどのようにして不平等条約を改正したのだろう。

左の問いに答えるつもりで、右のノートの下線に語句を書こう。最後に「まとめ」で今日の問いに答えよう。

問い・キーワード

ノート 下線に語句を書こう

1 帝国主義とはどんな動きか。

軍勢力・経済力で植民地を広げる

19世紀後半、欧米の¹ 列強 は軍勢力や経済力でほかの地域を植民地にしようとした。この動きを² 帝国主義 という。列強は³ アフリカ大陸 の大部分を植民地として分け合った。幕末の不平等条約では、外国人をその国の領事が裁く⁴ 領事裁判権 が認められ、税の率を自分で決める⁵ 関税自主権 もなかった。

2 条約改正はどのように実現したか。

鹿鳴館・ノルマントン号事件

政府は欧化政策を進め、東京に⁶ 鹿鳴館 を建てた。1886年の⁷ ノルマントン号事件 で不平等条約への不満が高まった。1894年、外務大臣の⁸ 陸奥宗光 が領事裁判権の撤廃に成功し、1911年には外務大臣の⁹ 小村寿太郎 が関税自主権の回復を実現して、条約改正が達成された。

年表 — この単元のできごと

1886

ノルマントン号事件が起こる

1894

陸奥宗光が領事裁判権撤廃に成功

1911

小村寿太郎が関税自主権回復に成功

まとめ

今日の問いに答えよう。「陸奥宗光」「小村寿太郎」の2語を使って、2文で書きなさい。

(例)1894年、外務大臣の陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功した。1911年には外務大臣の小村寿太郎が関税自主権の回復を実現し、条約改正が達成された。

